

この誇りを胸に

盛大に結成30周年記念集会——三池主婦会

伝統ある歴史にまなぶ

構成劇に拍手と涙

三池主婦会結成30周年記念集会が七月十日午後一時三十分から、大牟田市民会館で開かれました。主婦会員をはじめ、主婦会OB、組合員、組合員OB、婦人まなぶの人々、約八百人が参加して盛大に行われました。



大牟田市民会館の階下をいっぱい埋めた参加者の目はホッパーと群衆をバックに真っ赤なタイトルの舞台に引きつけられた。

平川弘子事務局長の司会によって、集会の第一部は『炭焼協のうた』の全員合唱で始まりました。

主催者を代表して島文枝会長があいさつにたち、「昭和二十八年七月、会社の妨害をはねのけ主婦会が結成されて三十年になります。この三十年の歴史は平坦なものではなく、労働組合と一緒にあって労働者の生命と権利を守ってきたことがありました。私たちは諸先輩がたがつけられた輝かしい伝統ある歴史をひきつぎ、頑張っていく決意です」と述べました。

ついで森田満三池労組組合長が「昭和二十七年十月の六三スト以後、主婦会の結成が具体的にになり、私も勝利の一環座の集いに参加した記憶を、昨日のこのように憶えています。その後のた



構成劇「この誇りを胸に」の1シーン、組合執行部の春闘情宣に耳を傾ける主婦たち。執行部役のエキストラは谷端元副組合長。



構成劇「この誇りを胸に」の終幕で、出演者全員による「がんばろう」合唱。



9日午後1時、労働福祉会館での「三池にまなぶ婦人集会」の開会集会のまよう。

参加者の声

きた役割の大きさを、見直す必要があると思います。これからも平和を守るために、主婦が先頭に立って頑張ることが重要だと思います。

にぎやかに
レセプション

記念集会が終ったあと、午後五時から、ほろ会館で記念レセプションが催され、主婦会OBの方を中心に百五十人が参加しました。

久しぶりの再会を話がはずみ、旧各支部ごとのスピーチ、歌などが出されるころには最高潮となり、およそ二時間のにぎやかな交流となりました。

「婦人まなぶ」
三日間の交流

第一回を迎えた三池にまなぶ婦人集会は、九日から十一日まで三池主婦会三十周年記念集会参加と民泊、交流などをかねて全国から百人の婦人の皆さんが参加されました。(写真別項)

田中芳子さん(組合員)「私も働きだして二十五年を過ぎたのですが、母たちの最初のたたかいの記憶はあまりないんです。構成劇を見て、あれこれ思い出しているのですが、主婦会の歴史をあらためて勉強してみます」

古賀澄枝さん(港務所主婦会OB)「平和がおびやかされているいま、主婦会結成の意義と歩いて

り出すことができたことです。ご出席の皆様にあたたかめにお礼を申し上げます。

主婦会三十年の歩みをさらに前進させるために、主婦会運動の原点であり、歴史に学びつつかわれた「家族ぐるみ」の運動のエネルギーを、軍事大国化への道を歩み、平和を守り、命や暮らしを守るために、団結をかため、三池労組、そして全国の労働者、地域住民との連携を深めていきます。

「未来は労働者階級と婦人のも」という展望をもって、こころも主婦会運動の輪を広げて前進させることをお誓いし、決意をいたします。

このような中で、組織人員も少なくなっていますが、志を同じくする仲間が全国に広がっており、なによりも私たちにとっての喜びは、主婦会運動の輪の広がりの中から、婦人の代表として島会長を大牟田市民会館に送

かいははじめ、平和のための運動、政治への関心を深める運動などに三池労組とともに取り組む、今日の主婦会となりました。三十年前、主婦会の結成を執拗に妨害した資本の意図は明らかであり、資本主義社会である限り、怒りを責任追及のたたかいとして、三池労組・主婦会が

う。いま、自民党中曽根内閣は財界と一体となって、「不沈空母」などの危険な発言にみられるように、福祉や民主教育を踏みにじって弱者いじめの行政改革をおしすすめる一方、軍備拡大、核戦争への道をつきすす

り出すことができたことです。ご出席の皆様にあたたかめにお礼を申し上げます。

主婦会三十年の歩みをさらに前進させるために、主婦会運動の原点であり、歴史に学びつつかわれた「家族ぐるみ」の運動のエネルギーを、軍事大国化への道を歩み、平和を守り、命や暮らしを守るために、団結をかため、三池労組、そして全国の労働者、地域住民との連携を深めていきます。

「未来は労働者階級と婦人のも」という展望をもって、こころも主婦会運動の輪を広げて前進させることをお誓いし、決意をいたします。

かいははじめ、平和のための運動、政治への関心を深める運動などに三池労組とともに取り組む、今日の主婦会となりました。三十年前、主婦会の結成を執拗に妨害した資本の意図は明らかであり、資本主義社会である限り、怒りを責任追及のたたかいとして、三池労組・主婦会が

結成三十周年に当つての決意

時代的な炭焼爆発を引き起こし、四百五十八人の尊い命を奪い、八百三十九人におよぶCO中毒患者を出しました。炭焼労働者の家族として腹わたのちぎれる思いと、三井資本へのたぎる憎しみ、怒りを責任追及のたたかいとして、三池労組・主婦会が

三井の人へらし合理化は、前

私たちの運動は、すべて人間らしく生きるためのたたかいの連続でしたが、昭和三十八年十一月九日の三川鉱の大災害は生涯忘れられない痛恨事でした。



島会長のあいさつ



五島元会長のあいさつ